

ORCHESTER PFIRSICH TWELFTH CONCERT

オーケストラ・フィルジツヒ

ロッシーニ
歌劇『セビリアの理髪師』序曲

モーツァルト
ピアノ協奏曲第20番 二短調 K.466

メンデルスゾーン
交響曲第4番 イ長調 作品90 『イタリア』

芸術監督：嶋津 武仁
(作曲家・福島大学名誉教授)

指揮：高橋 裕之

ピアノ：江川 龍二



Hiroyuki Takahashi



Ryuji Egawa

2016年2月28日(日)

開場 13:30 開演 14:00

福島市音楽堂 大ホール

全席自由 一般 1,000円 高校生以下 800円

チケット取扱い:

あきたや楽器店、日野屋楽器店、管楽器専門店“BRILLIANT”
福島市音楽堂、福島県文化センター

主催：オーケストラ・フィルジツヒ

後援：福島市、福島市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、ラジオ福島、福島テレビ、
福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ふくしまFM、福島コミュニティ放送FMポコ

協賛：株式会社パナナ

助成：福島県文化振興財団

お問い合わせ: pfirsich@pfirsich.jp ウェブサイト: <http://www.pfirsich.jp>

第12回演奏会

“12”という数字を見て、初めに何を想像するでしょうか。

鉛筆1ダースは12本。12カ月で1年。十二支は12年でひとまわり。12年と聞いてウィスキーを連想したあなたは、無類の酒好きでしょう。様々な銘柄で「12年もの」があるのは、それがウィスキーの熟成期間の基本でもあるからだと思います。サッカーの世界で「12番目の選手」といえば、そのチームを愛するサポーターを意味します。意外にも“12”という数字は身近にあるものですね。

さて、オーケストラ・フィルジッヒの演奏会も、今年で12回目を数えることとなりました。今回のプログラムの主調は、ずばりイタリアです。ヨーロッパの人々にとって、イタリアは常に羨望的。古代ローマの輝かしい歴史や陽気な気候、そして何よりも地中海の豊かな恵みに惹かれる訳です。そんなイタリアを目指すことは、これまでドイツ音楽をプログラムの主調に据えてきたフィルジッヒにとっても、新たなチャレンジになります。まずは、美食家としても知られるロッシーニの序曲から平らげてみたいと思います。

フィルジッヒのサウンドが、この12年でどのように熟成されてきたのか。その風味を味わうために、フィルジッヒを愛する“12番目の選手”である皆様にご来場いただけますことを、心よりお待ち申し上げます。

指揮: 高橋 裕之

福島市出身。福島大学大学院音楽教育専修(作曲・指揮)修了。大学在学中より竹澤嘉明氏の指導の下、声楽研究会学内オペラ公演を指揮してオペラ制作に触れる。その後、オペラ「乙和の椿」東京公演(福島オペラ協会)で副指揮者を務めたことをきっかけに、本格的に指揮の研鑽を積み始める。これまでに阿部雅人、岡本美千代(ホルン)、嶋津武仁(指揮法・音楽分析)、井上宏一、故K・レーデル、本多優之(指揮法)、金谷昌治(室内楽)の各氏に師事。2009・10年、下野竜也氏によるマスターコースを受講。2011年、ブカレスト国際指揮セミナーマスタークラスを受講。ディプロマを取得。

オペラ分野では2007年、福島オペラ協会10周年記念公演・喜歌劇「こうもり」にて本公演デビュー。『音楽の友』誌上で好評を受ける。副指揮者としては、福島オペラ協会、仙台オペラ協会をはじめ都内オペラ団体にて数々のオペラ公演に携わる。これまでに「魔笛」、「椿姫」、「ラ・ボエム」、「蝶々夫人」などの海外作品を指揮する一方で、金光威和雄作曲の新作オペラ「いのち甦る」初演を指揮。作曲家自身に「よく研究された上での確かな指揮」と評されるなど、現代の作品にも意欲的に取り組んでいる。管弦楽分野ではドレスデン音楽祭において嶋津武仁氏の作品コンサートを指揮し(ドレスデン国立歌劇場)、世界的フルート奏者カミラ・ホイテンガ氏と共演。これまでに、ルーマニア・ラジオ・シンフォニーオーケストラ、パザルジク交響楽団を指揮。国内では、ラ・フォル・ジュルネ・ジャポニに出演するなど各地で活動をしている。現在、福島県立医科大学非常勤講師。福島東陵高校非常勤講師。

Orchester Pfirsich オーケストラ・フィルジッヒ

オーケストラ・フィルジッヒは、福島県に縁のある器楽奏者を中心に2003年に創立された非常設のオーケストラです。諸事情により恒常的なオーケストラ活動が困難な人、音楽教室の講師、各地の市民オーケストラに所属している人などにより構成され、音楽を愛する人の新たな交流の場となっています。そして限られた練習回数の中で、より質の高い演奏を行うことを目標に活動しています。

芸術監督に作曲家で福島大学名誉教授の嶋津武仁氏、常任指揮者に福島市出身で新進気鋭の高橋裕之氏を迎え、2004年2月に初の演奏会を開催。以来、バロックから現代まで、交響曲からオペラまで、様々な時代・ジャンルの曲に取り組んでいます。2014年2月の第10回演奏会ではベートーヴェンの「第九」を、福島市内の高校生を中心として編成された合唱団コア・フィルジッヒと共演、大きな喝采を博しました。

楽団名となっている“フィルジッヒ(Pfirsich)”=桃は福島の名産品です。その花が美しく咲き、香りが風に乘って届くように、また、その果実の豊かな味わいが人を喜ばせるように、当楽団の存在が、音楽を愛する全ての人々にとって歓迎されるようにとの願いが込められています。



第1回演奏会 2004年2月21日 福島市音楽堂

ピアノ: 江川 龍二

1964年、会津若松市出身。国立音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを秋月和子、ウラジーミル・竹ノ内、池沢幹男、指揮を小塚類の各氏に師事。大学卒業後は、福島県立高校の音楽教諭として勤務、また長期研究員として福島県教育センターに勤務した。退職した後、現在は自宅にて音楽教室を主宰。音楽大学等を志す後進の育成にあたっている。

これまで、東京や福島県内各地での演奏会の他、国立音楽大学福島県同調会演奏会、学校芸術教室やサロンコンサート、会津演奏家連盟主催「ニューイヤークンサート」「音楽の森コンサート」など数多くの演奏会に出演。独奏の他、オーケストラや吹奏楽団、合唱団、器楽奏者、声楽家との共演も数多い。福島県民協会合唱団と共に渡欧し、スロヴァキア(ヴラチスラヴァ)とオーストリア(ウィーン)等で演奏。

公益財団法人会津若松文化振興財団文化のまちづくり事業委員会副委員長。あいづ・あすなろ合唱団指揮者、にろく大学・歌唱教室講師、会津演奏家連盟代表。

これまでの演奏会 芸術監督: 嶋津武仁 指揮: 高橋裕之

- 第1回演奏会 2004.2.21 福島市音楽堂 大ホール**
ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスター・シンガー」より第1幕への前奏曲
ブラームス/ハンガリー舞曲集より第1,4,5,6番
ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」
- 第2回演奏会 2005.1.29 福島市音楽堂 大ホール**
ワーグナー/ジークフリート牧歌
バルトーク/ハンガリーの情景
ブラームス/交響曲第2番
- 第3回演奏会 2006.12.2 福島市音楽堂 大ホール**
モーツァルト/歌劇「魔笛」より序曲
嶋津武仁/風のごとく(世界初演)
メンデルスゾーン/交響曲第3番「スコットランド」
- 第4回演奏会 2008.1.27 こむこむ わいわいホール**
[クラリネット:清川貴子 ゲスト・コンサートマスター:風岡優]
ウェバー/歌劇「魔弾の射手」より序曲
ウェバー/クラリネット協奏曲第2番
ベートーヴェン/交響曲第1番
- 第5回演奏会 2009.1.25 福島市音楽堂 大ホール**
[バリトン:佐藤一成]
サリヴァン/コミック・オペラ「魔法使い」より序曲
マラー/さすらい若人の歌
ドヴォルザーク/交響曲第8番
- 第6回演奏会 2010.1.30 福島市音楽堂 大ホール**
ロッシーニ/歌劇「泥棒かささぎ」より序曲
エルガー/3つのバイエルン舞曲
ベートーヴェン/交響曲第7番
- 第7回演奏会 2011.2.20 福島市音楽堂 大ホール**
[バリトン:佐藤一成]
チマローザ/歌劇「宮廷楽士長」
メンデルスゾーン/交響曲第5番「宗教改革」
- 第8回演奏会 2012.1.30 福島市音楽堂 大ホール**
[バリトン:佐藤一成 ピアノ:中畑洋]
嶋津武仁/バリトンとオーケストラのための「レクイエム」(世界初演)
ショパン/ピアノ協奏曲第1番
ブラームス/交響曲第2短調
- 第9回演奏会 2013.2.3 福島市音楽堂 大ホール**
ワーグナー/歌劇「さまよえるオランダ人」より序曲
フォーレ/組曲「ペレアスとメリザンド」
ブラームス/交響曲第1番
- 第10回演奏会 2014.2.11 福島市音楽堂 大ホール**
ソプラノ:阿部絵美子 アルト:星由佳子 テノール:星弓彦 バリトン:佐藤一成
合唱:Chor Pfirsich(コア・フィルジッヒ)
嶋津武仁/「聖歌」(世界初演)
ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付」
- 第11回演奏会 2015.2.1 福島市音楽堂 大ホール**
モーツァルト/歌劇「劇場支配人」より序曲
プロコフィエフ/交響曲第1番「古典交響曲」
ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」